

冬期の給湯器の凍結予防と凍結時の対応

例年、冬期に給湯器の凍結に関するお問い合わせが増加します。

安心してお使いいただけるように、凍結予防と凍結した場合の主な対応方法をご案内します。
詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書の「冬期の凍結による破損防止について」をご確認ください。

■修理を依頼される時の注意

配管が凍結している場合、弊社サービスマンがお伺いしても対応しかねるケースがあります。
配管凍結が主な原因と考えられる場合、訪問をお断りさせていただくことがございます。
ご不便をおかけしますが、配管が自然に解凍するまでお待ちください。

配管凍結が考えられる症状や関連するエラーコードは、次のページをご覧ください。
凍結により機器が破損した場合の修理は保証期間内でも有償になります。

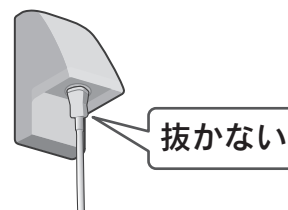
凍結予防の対応について

給湯器は気温が下がると凍結予防装置が自動的に作動し機器の凍結を防止しますが、接続されている配管までは凍結を防止できません。配管の凍結予防のため以下の対応をしてください。

■給湯器の電源プラグは抜かない

※エコキュート・電気温水器はブレーカーを OFF にしない。

給湯器は外気温がある程度下がると凍結予防の安全装置が自動的に作動し、機器本体の凍結を予防します。(水抜きした場合は除く)



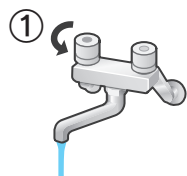
■給水・給湯配管の凍結予防

※エコキュート・電気温水器は給湯温度を「Lo (給水温度)」に設定する。

給湯栓からごく少量の水を出しっぱなしにしておいてください。

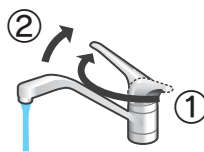
●2ハンドル混合水栓

①給湯栓を開ける



●シングルレバー混合水栓

①湯側いっぱい回す
②給湯栓を開ける



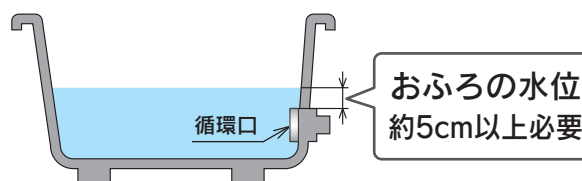
●サーモスタット付混合水栓

①最高温度にする
②給湯栓を開ける



■ふろ配管・循環ポンプの凍結予防

追いだき付の給湯器やふろがまの場合はおふろの水位が循環口より約 5cm 以上になるようにお湯を残してください。



【よくあるお問い合わせ】

凍結防止運転のため循環ポンプが作動して循環口から音がしたり、勝手に水が出たりしますが正常です。

凍結時の症状・関連エラーコード

ご不便をおかけしますが、気温の上昇により配管が自然に解凍するまでお待ちください。

外気温が0℃以下になると、配管の保温工事を行っていても配管内の水が凍結し、お湯や水が出なくなる場合やリモコンに下記のようなエラーコードを表示する場合があります。

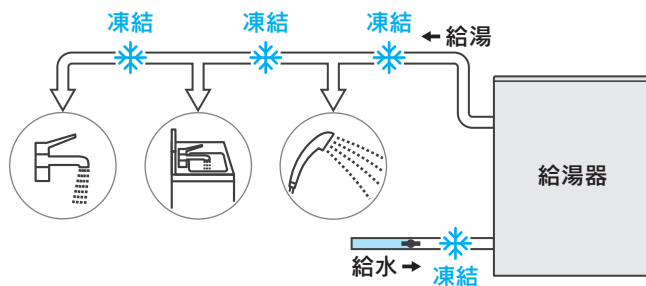
気温の上昇により配管が自然に解凍するまでお待ちください。

給湯栓から水が出るようになったら、機器や配管から水漏れがないか確認してからご使用ください。エラーコードのリセット方法は、取扱説明書の「エラーコード」をご確認ください。

■給水・給湯配管が凍結した場合

水もお湯も何も出てこない、
またはわずかしき出なくなります。

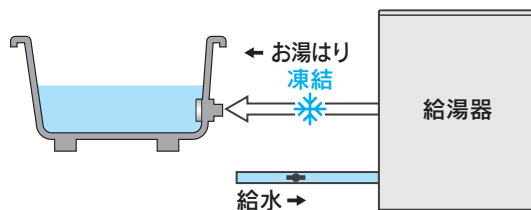
機種	石油給湯器	エコキュート・電気温水器
関連 エラーコード	261	E16 / E26



■ふろ配管が凍結した場合

お湯はりまたは追いだきができなくなります。

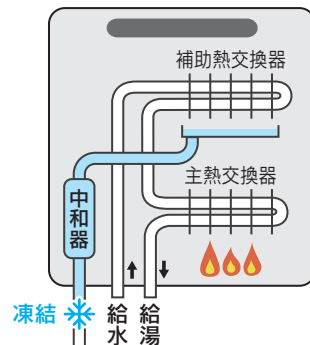
機種	石油給湯器・ガス給湯器・ガスふろがま	エコキュート・電気温水器
関連 エラーコード	032 / 562 / 632	F32 / F56



■ドレン配管が凍結した場合

エコフィール・エコジョーズなどの高効率給湯器では、燃焼の際にドレンといわれる水が発生しますが、そのドレンが排出されずに内部に溜まりエラーコードを表示します。

機種	石油給湯器 (エコフィール)・ガス給湯器 (エコジョーズ)
関連 エラーコード	290 / 291



■ヒートポンプ配管が凍結した場合

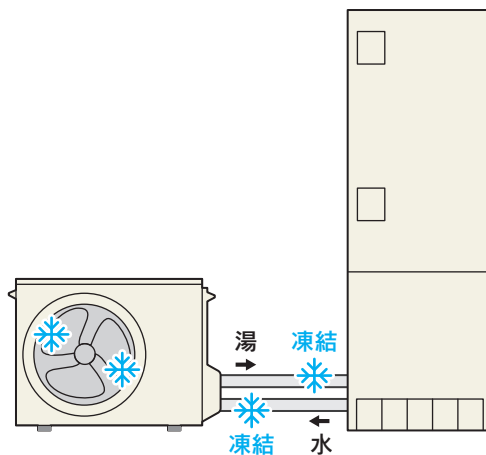
お湯の沸き上げができなくなります。

機種	エコキュート
関連 エラーコード	HJ

■ファンが凍結・積雪した場合

ファンに雪や氷が付着して、回らなくなります。

機種	エコキュート
関連 エラーコード	E7



凍結時の対応について

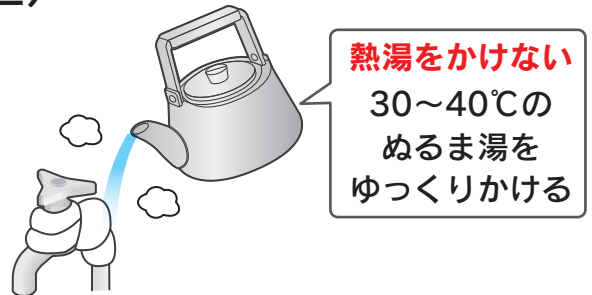
■**ご不便をおかけしますが、気温の上昇により配管が自然に解凍するまでお待ちください。**

■**すぐにお湯を使いたい場合（応急処置）**

給水栓や水道管にタオルを巻いて、
その上からゆっくりと 30～40℃の
ぬるま湯をかけて溶かしてください。

熱湯はかけないでください。

機器や配管が破損する恐れがあります。



■**積雪した場合**

積雪や屋根から落ちた雪により給気部や
排気口がふさがれないように点検・除雪を
行ってください。

雪でふさがれるおそれがある場所に設置
されている場合は、給排気に影響がない
ように防雪処置を行ってください。

